

事務事業事後評価シート[令和1年度事業]

1. 基本情報

■事業の担当課	中央図書館	■担当係	資料係
■評価事業名称	図書資料整備事業		
■事業開始年度	平成3年度		
■評価事業コード	418100 - 002	■会計区分	一般会計
■総合計画での位置づけ	■政策	02 生きる力を育み、文化が躍動するまちづくり	
	■基本施策	02 社会教育の充実	
	■施策	03 社会教育機能の充実	
■事業の類型	05 ソフト事業(任意)	■政策・業務区分	政策
■法令の根拠区分	法令に定めはあるが任意の自治事務		
■法令等の名称	図書館法第三条、北上市立図書館規則第11条		
■関連計画の名称			
■事業の目的と概要	市民の要望に応えられるよう、幅広く資料を収集する。一般書・児童書・映像資料・地域資料・逐次刊行物等を社会情勢、蔵書構成、市民ニーズを考慮しながら収集、整理、保存し、利用者に提供する。		

2. 細事業の活動実績情報

細事業コード	細事業名称	事業の対象	令和1年度事業計画	令和1年度事業量実績
01	新聞・雑誌	市民ほか	新聞雑誌の購入	新聞・雑誌等の閲覧用タイトル数112種・新聞等17種・雑誌等95種
02	図書	市民ほか	資料の購入(寄贈除く)図書資料 冊映像資料 冊合計 点雑誌 点	1年間の購入冊数(寄贈除く)図書資料 7,276冊映像資料 75点地域資料 108 冊雑誌 883冊合計 8,342点

3. 投入コスト情報

(単位:千円)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和1年度	備考
直接事業費	13,454	13,741	13,662	13,789	
人件費	5,707	10,225	7,632	5,072	
その他(公債費・減価償却費等)					
フルコスト	19,161	23,966	21,294	18,861	

4. 評価指標等の状況

指標コード	指標名	28年度	29年度	30年度	1年度	指標の説明
01	総貸出冊数	460,733冊	453,801冊	455,182冊	458,682冊	総貸出冊数
02	受入1冊当りコスト	2210円	2,921円	2,580円	2,260円	フルコスト÷購入冊数

事務事業事後評価シート[令和1年度事業]

03	貸出1冊当りコスト	41.588円	46.923円	46.781円	41.119円	フルコスト÷総貸出冊数
04	受入冊数	8,670点	8,204点	8,253点	8,342点	1年間の図書・雑誌購入冊数(新聞は除く)

5. 事後評価(「政策」事業類型5・6のみ)

■目標達成状況

- A. 順調
- B. 概ね順調
- C. 遅れている

達成状況の分析

各館毎に年度の収集目標を立て、計画的に資料の収集を行った。

問題点・課題等

出版状況が変化し、必要な資料が入り手難い環境となっている。

1. 直接的な受益者の範囲

- 不特定多数に及ぶ
- 特定されるが多数に及ぶ
- 特定少数に限定される

2. 国・県・民間との競合関係の有無

- 類似の事業はない
- 類似の事業はあるが競合はない
- 類似の事業があり競合する

3. 事業廃止の影響・貢献度

- 事業の廃止により重大な問題が発生する
- 事業の廃止により何らかの問題が発生する
- 事業の廃止による問題は想定されない

4. 市民生活・企業活動への貢献度

- 市民生活・企業活動の維持に不可欠
- 市民生活・企業活動の維持に一定程度貢献している
- 市民生活・企業活動の維持への貢献度は低い

5. 事業廃止の影響を受ける受益者の割合

- 1. で選択した人の大多数(70%程度)
- 1. で選択した人の半分程度(50%程度)
- 1. で選択した人の少数(30%程度)

6. 事業へのニーズの変化

- ニーズが高まっている
- ニーズは変わらない
- ニーズが低下している又は合致しない

7. 施策の改善需要度(市民意識調査)

- 順位が高い
- 順位が中程度
- 順位が低い

8. 施策の優先度(市民意識調査)

- 順位が高い
- 順位が中程度
- 順位が低い

9. 他市町村に比較しての優位性

- 先進的またはユニークな事業である
- 他と同程度の事業である
- 遅れている事業である

10. 実施主体の代替性

- 民間委託等の拡充は難しい
- 民間委託等の拡充が十分に可能
- 全部委託や実施主体の移行が可能

11. 経済性・効率性の向上

- 今以上の効率化や改善は難しい
- 効率化や改善を図ることは十分に可能
- 効率化や改善の余地が大きい

■事業の見直し方策(評価項目2,4の補足説明含む)

貸出冊数も伸び、市民のニーズは変わらずある。資料の充実が市民サービスに直結するものである。資料費を確保し、各館に合った蔵書を構築していく必要がある。

■今後の方向性

- I. 拡充
- II. 継続
- III. 縮小
- IV. 廃止・休止
- V. 完了